

令和3年度 第2回湖南省社会教育委員会議 会議録

日時 令和4年(2022年)2月1日(火)

午後7時～午後7時50分

場所 西庁舎3階大会議室

参加者 8人

欠席者 5人

1 開会あいさつ

教育委員会教育部管理監

2 報告

① 教育委員との懇談会の報告について 資料1

会長

一つ目、10月29日に開催された教育委員との懇談会の報告を行います。社会教育委員からは、3名が出席しました。本日の会議資料については、事務局から事前に内容をまとめたものを送付いただきましたが、懇談会に出席した委員から、まとめた内容の変更の連絡があったということで、本日新たに資料を配りました。目を通していただいていると思いますので、短縮の意味でも、内容は読みませんが、ご意見、ご質問があれば伺いたいと思います。特にないでしょうか。来年度からも社会教育という立場から教育委員との意見交換を続けていこうと思いますので、来年度もよろしくお願いします。

② 滋賀県社会教育研究大会兼人生100年時代の地域における学びと活躍推進事業生涯学習・社会教育研修会の報告について

会長

続きまして、二つ目の報告として、11月18日に行われた県の社会教育研究大会の報告について、副会長からお願いします。

副会長

滋賀県社会教育研究大会についてまとめたものを報告させていただきます。武井哲郎先生の演題は「地域と学校の協働 社会教育の新たなつながり」ということで、約40分の講演で、社会教育の課題、協働を考える時の注意点、協働するときのポイントを話されました。

まず、社会教育の課題ですが、社会教育で「皆が幸せに暮らせる社会をどう作っていくか」を考える上では、社会教育が持つ「社会的包摂の寄与」という役割が重要になります。そこで、社会教育の現代的課題は「共生社会の実現」がテーマだと言われました。その実現のため、まず伝えたいと言われたのが、地域と学校の協働を作るにあたっての注意点です。

- ① 地域と学校の協働は、必ずしも良い結果を生むものではない。プラス面もあればマイナス面もある。
- ② 地域と学校の協働は、子どもの学びや育ちを守る手段であり、それを目的にしてはならない。
- ③ それを踏まえた上で、困難を抱えた、見えてきにくい人たちの存在を意識して活動してほしい。

と言われました。次に、全国の活動状況を分析された結果から、実際に地域と学校の協働を行う際のポイントを話されました。

- ① 地域づくりと学校づくりは両輪であり、両方の視点を持って進めること。
- ② 活動を中身でみたとき、地域も学校もプログラムの実施（目標達成）を重視しがちであるが、その中でも実態として、その子の存在を認めて自己肯定感が得られる居場所を作ること。
- ③ これら、地域づくりと学校づくり、プログラムの実施と居場所の提供は、それぞれ補い合う関係でもあるので、ぐるぐる回るスパイラルを作ること。

この3つが大事な視点だと言われました。最後にまとめとして、アフターコロナになったとしても、厳しい方にはより厳しくなっているということを念頭に、共生社会の実現にむけた社会教育を目指して頂きたい。地域でも学校でもしんどさを抱える子やその家庭に対する「居場所づくり」が望まれる。それには多様な形態が考えられるが、社会教育と地域福祉を連携させてほしい。

また、プログラムを実施するときは、形だけの参加にならないよう、子どもの自治の力を育てるという視点を持って頂きたい。このように言われて話を締められました。

会長

副会長の報告に補足させていただくと、「doing」というのはプログラムの実施型で、目的を達成する行動を求めます。子どもたちに、地域も学校もどちらかというと「doing」の活動やプログラムを用意することが多くなっていないか、そこで、「being」は居場所提供型とって、そのままでいいよと安心して過ごせる場所を提供することです。副会長がおっしゃってくださったように、この二つをぐるぐる回していくことが大事ですが、今のところ、どちらかと言えば、地域も学校も「doing」に偏っている方が多くなっていないか、「being」を意識したほうがいいのではないか、と思いワークショップをしました。一つ、講師の先生に褒めていただいたのは、生涯学習課でやっている「親子プレイステーション」はまさに居場所づくりであることです。イベントやプログラムを何もしないで、室内の公園のようなかたちで、おもちゃを用意してきていただく活動を15年ほどしていますが、大事なことであると認識しました。今の内容について、質問や意見はありますか。資料の一つで、「しが志縁」に研究大会についてまとめていますので、また見ておいてください。

3 意見交換

社会教育委員としての2年間の感想や社会教育委員会で協議してほしいテーマなど
会長

今期はコミュニティスクール(CS)について意見を交換してきました。社会教育委員としての2年間の感想や社会教育委員会議で協議してほしいテーマ等、それぞれ考えておられる事を最後にお話ししていただきたいと思います。会議の時間短縮に相反しますが、一人ずつ3分以内でご意見を伺いたいと思います。

委員

この2年間、コロナ禍で開催された回数も数回のみで、まとまることが難しかったですが、私が今、直接携わっているコミュニティスクールについて、社会教育委員の中で、議題にあげていただき良かったと思います。その中で、教育委員は必ず学区ごとにコミュニティスクールの会議に参加しているので、社会教育委員もできたら参加できないかと提案し、先日の教育委員との懇談会のなかでも話をさせていただきました。学校の中でも社会教育委員って何をしているの?と聞かれることが多いです。社会教育委員は関わる範囲が広いので、いろいろな視点でいられることが利点であると思います。社会教育委員もコミュニティスクールの地域のなかに入っていくと、そのなかで社会教育委員について知ってもらえることもメリットだと思うので、実現してもらえたら嬉しいと思っています。

委員

社会教育委員になって、みなさんの話を聞けることは、今までなかったことでした。社会教育委員になるまでは、まちづくり協議会に携わってきて、子どもに関しても夏休みの宿題をみたり、ものづくりを楽しませる企画など子どもや親さんが喜ぶのですごい活動だと思っていましたが、その中でも送り迎えしたくてもできない親さんがいたり、入っていけない子どもは必ずいると思います。そういう子ども達を地域の子どものとして巻き込んでいくことをどういう活動としてやっていくべきなのか?多くの地域の人たちや学校の先生方などいろんな人の力を集めてしなければならない、送り迎えができない、入っていけない子どもについてもっと話し合わなければならない、活動していかなければならないと思っていますが、流されていると感じることもあります。社会教育委員会議でもみなさんの意見を聞いて、あと一歩どうしたらいいかと思っても、意見交換にただ参加するだけで、力不足を感じている。その思いを持ち続けて、地域で活動していきたいと思っています。

委員

2年間活動し、あっという間に終わったという感覚で、何もできていなかったと反省しています。地域と子どもの距離を縮めていく社会教育のなかでは、昨年度の社会教育委員は、50代から70代までが85%、30代から40代の方が15%と高齢者が多いと資料にありまし

た。子どもに近い年齢のひとたちにもたくさん入っていただいて上手くバランスがとれたらいいと思います。また、文化芸術を教育の場に提供していくことを今後のテーマとしてあげたいと思います。

委員

らくらく勉強会と地域コーディネーターの他に、小学校で支援員をしています。地域のものとして、地域の小学校にはいっています。子どもの問題、家庭の問題があからさまにわかる仕事で、支援員の仕事の時間数は少なく、週に15時間と決まっています。前はもっとあったのですが、湖南省教育委員会にがんばってほしいのが、理由があって15時間とは思いますが、時間数を増やしてもらいたいと思います。思いがあっても、1年間、時間が足りない過ぎて、2月3月は休まないといけない状況になっています。3学期でも落ち着かない学年をもっており、そこを訴えたいと思います。働き方改革、先生方も大変な思いをされているので、学校支援員の人数を増やしていただくか、時間数を増やしていただくことで、先生の負担を減らす、また、地域の子供達を助けるということになると思います。どこで訴えていいか分からなかったのが、ここで話させていただきました。おじいちゃんおばあちゃん世代の方が子どもを癒している現状を見ています。若い方ももちろんですが、やさしいおじいちゃんおばあちゃんに受け入れてもらえる場所がとても大切だと実感しています。各世代に子どもたちの支えになってほしいと思います。

委員

社会教育委員をやらせていただいています。実は、湖南省に勤めることが初めてで、湖南省のシステムもはじめてで、いきなり社会教育委員に任命され、また、コミュニティスクールというものも初めて知った状態で、最初はてんやわんやでスタートしました。併せて、コロナが流行って、CSには助けてもらったが、本来の活動が網羅できなくて悔しい思いです。社会教育委員として、逆にCSについて勉強ができてよい機会をいただいたと思います。最初はCSというのは、学校を助けてもらうという感覚でしたが、一緒に学校をつくる存在だということ、この2年間、大きな活動はなかったですが、小さな活動を重ねながら実感することができました。また、つくるだけではなく、地域に返して、地域を活性化して地域をつくっていくことが、今後学校に求められるのかなと思います。地域も安心できる、学校も安心できるようなCSでないといけないのかなと思います。何も分からない中で、たくさん教えていただいて、ある意味素敵な2年間ありがとうございました。あと5年で退職ですが、限られた時間で、学んだことを地域やCSに返していきたいと思います。

委員

前任のあとを受けて、みなさんとは、1年間のつきあいをさせていただきました。コミュニティスクールを議題として取り組んできましたが、私は、ある中学校の教頭るとき、その

中学校がコミュニティスクールになるときで、準備を1年間、本格始動を1年間携わりました。その後、別の中学校に転勤しまして、そこでも1年間コミュニティスクールの準備、1年間実施をしました。コミュニティスクールの立ち上げのとき、地域の方が来て、子どもの姿をどうしていこうかと真剣に話していただいたことを思い出します。その後、小学校で1年間お世話になり、現在の中学校がコミュニティスクールをスタートするタイミングで校長として赴任させていただきました。現在、1年目ですが、会議の中では、子どもたちをどうしようかということを中心とした会議を3回いたしました。子どもは学校にいる間は生徒ですが、卒業したら地域の一員になります。子ども時代に地域のなかで力を貸してもらったりすることが、地域で育っていこうという意識になっていくのかなと思ったときに、学校は学校だけでやっっていこうとするのは昔の考えであると思います。地域を発展させていく、地域を支えていく将来像を描きながらやっていかないといけないのかな、と思います。今、赴任している中学校区は、二つの小学校と合同のコミュニティスクールでありますので、こどもの居場所を作っていくにはどうしたらいいのかと話し合ってもらっています。なかなか、地域事業がコロナ禍により少ないなかで、外に出ていく場面が少なく、厳しい家庭の子どもはどんどん居場所がなくなっていて、その居場所をどうするのかをコミュニティスクールでも話し合っています。教育委員会の事業と併せて居場所づくりをしてくださっているので、そこで安心感を得た子どもがやがて大人になった時に、地域に恩返ししたいという意識を育てたいと思います。学校も地域とともにやっていることの大切さを実感した1年であったと思います。

副会長

コロナになって社会教育をあらためて深く考えるようになりました。人と集まってよいのか？その意味から考えるようになりました。ようやく Zoom を使えるようになり、会議の参加ややりとりはできるようになったのですが、大事なことは人と顔を合わせないと齟齬が生まれるということが改めてわかりました。社会教育では、人と顔を合わせるといことは外せないことだと思います。また厳しい状況の方に目を向けることはずっと続けていかなければいけないと思っています。私自身、中学校のコミュニティスクールに入らせて頂いていますが、コロナ禍で会議の回数が減りました。文化ホールでのボランティアもコロナで中止、婦人会活動も当初は集まって良いかどうかの判断が分かりませんでした。団体運営や活動が本当に難しいです。でもコロナをなんとか乗り越えて、人とつながる意義を深く思いながらやっていきたいと思っています。

会長

今期はコミュニティスクールをテーマに進めてきました。私自身は、子どもが育って学校に縁のない暮らしをしています。子育て支援に関わっているので、意識的にはアンテナをはっているつもりですが、コミュニティスクールや学校に関する情報はほとんど入ってこ

ない状況でした。しかし、この2年間で現状を知ることから色々と学ぶことができました私のように、子どもが学校に関わっていない世帯においては、コミュニティスクールについてはほとんど意識されていないかと思います。

また、このテーマを社会教育委員会議で進めていく難しさも感じました。市内のなかでも地域差があり、それぞれ課題が違ったからです。そういった中で、社会教育委員であろうが、個人であろうが、地域の学校運営協議会の傍聴は可能だそうです。そういう形で、地域の学校に一步、踏み入れてみるのも大切な事かと思います。コミュニティスクールに教育委員は入っているが、社会教育委員は入っていません。先日の教育委員との懇談会の中で、社会教育委員も入ってはどうかという話もでしたが、充て職はちょっと………という意見もありました。来年度、社会教育委員も替わりますので、いきなり社会教育委員として学校運営協議会に参加する事を委員さんに求めるのは難しい問題だと思います。私個人としては参加してみようかなと思いました。

次に、コロナ禍の社会教育においては、県の講習会で防災合宿について、日野町から発表がありました。この活動は継続が大切という事で、感染対策をしながら中止せずに実施されたそうです。コロナ禍で色々な事が中止になり、子どもたちに空白の時間を作ってしまった社会において、どんどんしんどくなっていく家庭が増え、自殺者も増えているという報告を目にしました。例えば、何かを実施したときに、感染者が出たとしても、世の中がもう少し寛容になって活動のやり方の審議を重ねながら活動を続けていく事も大切なのではないかと思います。

現在、まちづくりセンターで活動している就園前の親子サークルを中止することも考えましたが、とりあえず開催して、参加するかどうかは親子に判断してもらっています。中止する事で、母親がしんどくなる方が大きい問題になると身近に感じているからです。また、Zoomの会議と違って、実際に会って話をする方が頭に入ります。できるだけ感染対策をして、顔を合わせる方向で進めていけたらいいなと思っています。以上で私の感想を終わります。

皆さん、大変貴重な意見ありがとうございました。来年度に続く課題として、メンバー構成の話や、学校支援員の働き方改革をどこに話を進めていけばいいか等の委員さんのご意見を、事務局と相談してつなげていきたいと思っています。

4 今後の事業予定

① 滋賀県社会教育委員連絡協議会第2回理事会

日時：令和4年2月4日(金)14:00～17:00

場所：オンライン開催

会長

今後の事業予定について、事務局よりお願いします。

生涯学習課長補佐

滋賀県社会教育委員連絡協議会第2回理事会が令和4年2月4日(金)にオンラインにて開催されます。

会長

私が参加予定です。

5 その他

教育部の組織編制について

会長

組織編制について、現状の報告をお願いします。

生涯学習課長補佐

現状、はっきりわからない状態です。スポーツ、文化、文化財が市長部局に移りますが、具体的にはまったくわからない状態です。

会長

3月にはわかっていますか？

生涯学習課長補佐

3月の下旬には出てくると思います。社会教育は教育部に残りますが、どういう形で残るのかは分かりません。

生涯学習課長

社会教育委員会が「生涯学習のまちづくり審議会」という条例はあるが、開催はできていない審議会と一緒に、「生涯学習審議会」と名前を変えて、主体は社会教育委員さんが担っていただき、委員は15名で条例改正をする予定です。名称は変わりますが、社会教育委員の任務はそこに残ります。県の社会教育連絡協議会を脱退するということはありません。

会長

委嘱状には、社会教育委員という名前ではなくなるのですか。

生涯学習課長

そうです。

会長

県下では湖南省市だけですか。

生涯学習課長

湖南省市だけのやり方です。社会教育委員会議は残って、もっと幅広く議論をしていただくということです。

会長

幅広くというのは、テーマが幅広くなるのですか。

生涯学習課長

社会教育より、生涯学習の方が概念が広いということです。

副会長

社会教育委員、社会教育委員会議という名称がなくなって、生涯学習まちづくり審議会ができるということですか。

生涯学習課長

生涯学習まちづくり審議会から、まちづくりを除いて、生涯学習審議会にし、社会教育委員さんはそこに引き継ぎます。

副会長

生涯学習審議会ができ、そこに社会教育委員が入る、まちづくり審議会ではないということですね。

生涯学習課長

はい。社会教育の上に生涯学習の概念があり、社会教育も含めてやっていく、範囲をひろげてやっていくということです。

副会長

ありがとうございます。

会長

研修会などで、生涯学習と社会教育の概念の説明がありますが、はっきりとわかっていません。社会教育から生涯学習になったときに何がプラスされるのですか。

生涯学習課長補佐

プラスされるのは、学校教育です。今日配布した資料のなかの「滋賀の社会教育委員活動のハンドブック原案に対する意見照会について」をご覧ください。原案の4ページに、社会教育と生涯学習の関係が載っており、そこを見ていただくと分かりやすいかと思います。

会長

今の件について、よろしいでしょうか。

生涯学習課長補佐

付け加えますと、身分は社会教育委員のままです。

6 閉会あいさつ

副会長

最後の会議になりますが、みなさまの思いを聞かせていただいて本当によかったと思います。本来ならCSについて、最後にまとめをつくれたらと思ったのですが、やはりそれは難しいということになりまして、みなさまの思いを聞かせていただくことになりました。またこれからも、湖南市の社会教育が発展するように祈っております。